

暴力は絶対にいけない！

校長 松本 雅史

今朝は、暴力は絶対にいけないという話をします。

人が人に暴力を振るうとき、暴言を言うとき、そこには怒りの気持ちがあります。怒りの気持ちができるときってどんなときでしょう？

- ・相手が自分の思うようにしてくれないとき
- ・自分や大切な人の気持ちが傷つけられたとき
- ・相手が、人として間違っただけをしているとき

「怒り」は、いけない気持ちのように感じる人がいるかもしれませんが、間違っただけへの正義の怒りというものもあります。

そこで、考えて欲しいのです。自分が正しかったら何をしてもよいのでしょうか。自分に何か言い分があったら、相手を責めるようなことをしてもよいのでしょうか。

相手に間違いを分かってもらって、今後よりよく生きることが本当の解決だとすると、暴力や暴言に訴えるのは、実は何の解決にならないことが分かります。それこそ、自分のいらいらをぶつけているだけになってしまいます。それは、もう正義でも何でもありません。怒鳴って、脅して、意地悪をして相手を自分の思うようにしようとしたら、それは、いじめです。自分がどんなに正しくてもそれは許されません。暴力や暴言は、ときとして一瞬で相手を黙らせます。解決の一番の近道に思えるときがあります。しかし、これほど解決から遠ざけるやり方はないのです。

こうした、暴力や暴言は、子ども同士はもちろんですが、大人もいけないことは同じです。それは、先生や親でもだめなものだめです。今日、これから暴力や暴言についてのアンケートを行います。今年に入って、大人からの暴力や暴言でいやな思いをしたことがあったら、しっかり伝えてください。

暴言とは相手の心を傷つける言葉です。「死ね」「消えろ」「うざい」こうした言葉はみんな暴言です。五小は、先生も子どもも「自分や人が嫌がることは決してしない」を心に刻んで、していいことと悪いことを正しく判断して行動できる人になって欲しいと思います。あわせて、「それは違うよ」と教えてもらったことを聴くことのできる素直な心の人になっていてください。

これで、校長先生の話は終わります。